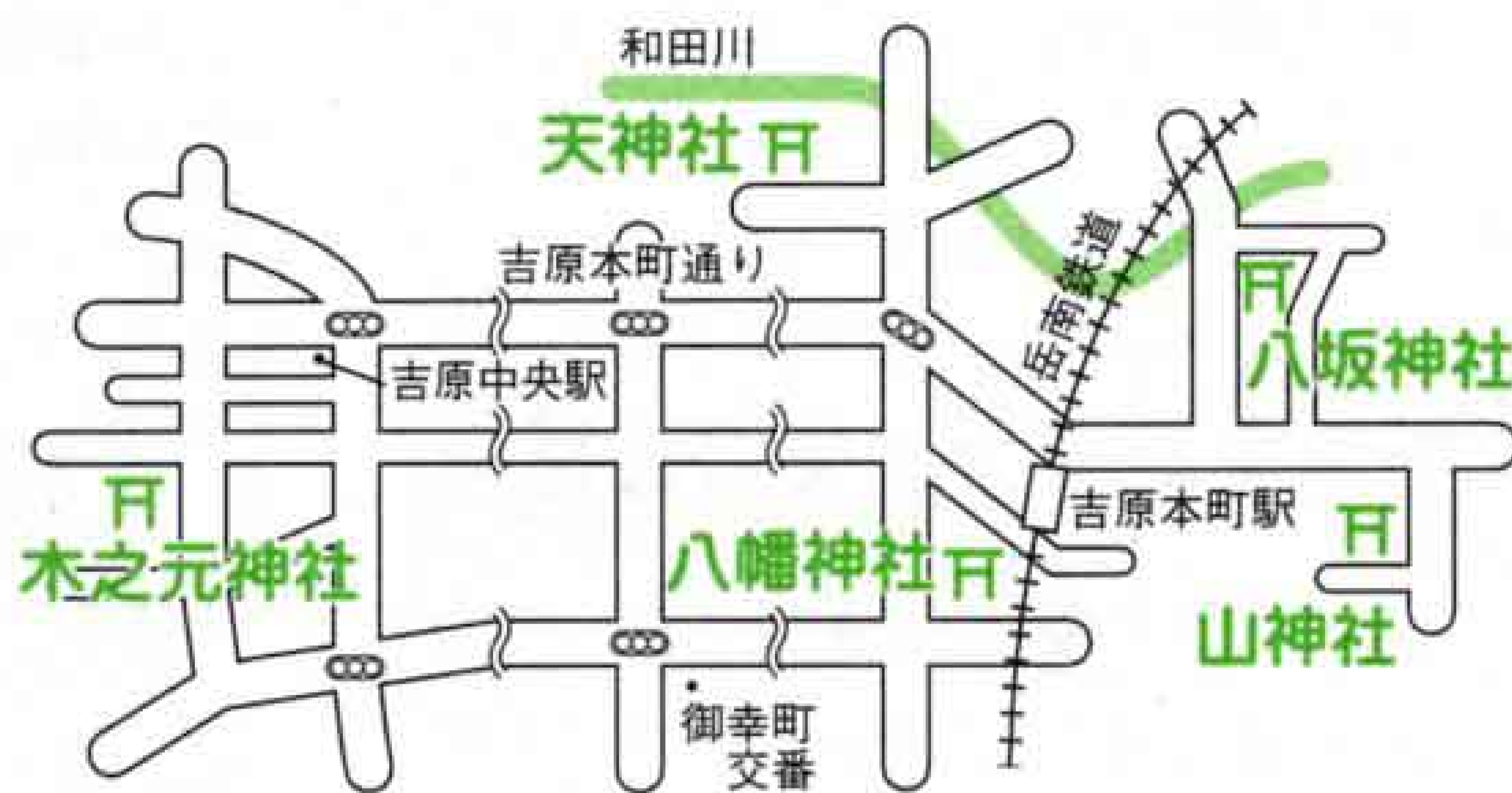
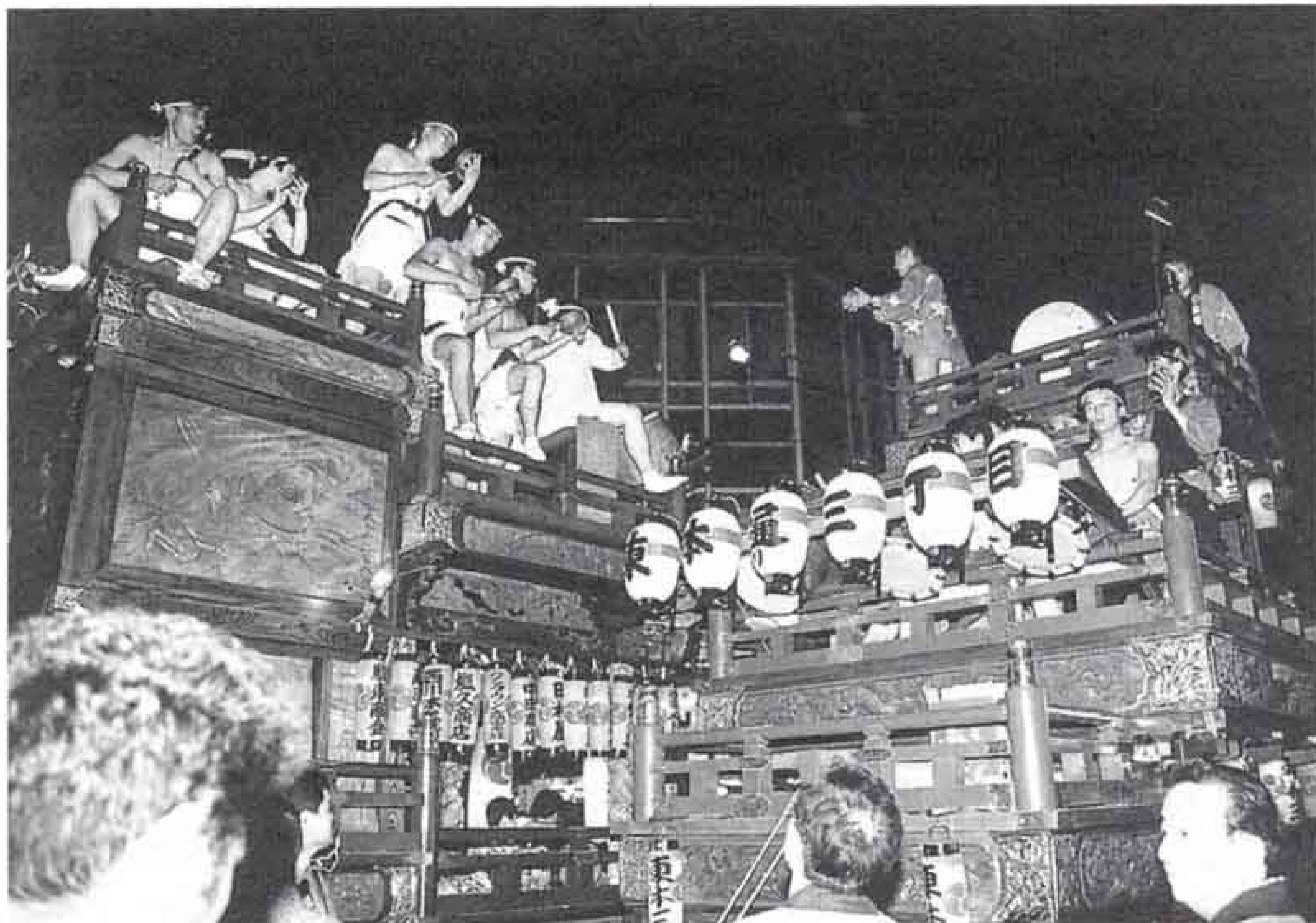


おんぎ 吉原祇園祭



第1回



吉原祇園祭 吉原本町通りほか
6月9日(土)・10日(日)

今から二百年ほど前の天明の時代は、長年の不作続きで、吉原周辺でも餓死する人が大勢出るといふ悲惨な状態でした。人々は氏神様に豊作を祈りながら、苦勞を惜しまず一生懸命働きました。その願いが通じたのか、やがて豊作の年を迎えました。人々は、氏神様へのお礼としてみこしをつくり、町内を練り歩いて豊作を祝いました。これが祇園祭の始まりだと言われています。

ところが、余りの喜びのため、みこしを担ぐ手にも力が入り、みこし同士の勢いのよい衝突が年を重ねるたびにふえて、けんかも激しくなりました。そこで人々は山車をつくり、祇園囃子を囃して町内を引き回す現在の形になったと言われています。

お囃子には「ニクスシ」「鎌倉昇殿」「小田原」「江戸若」「サンテコ」「ヤタイ」などの曲目があります。また、山車に施された彫刻もたいへん美しいもので、各山車ごとにそれぞれ特徴を持っています。

吉原祇園祭は、木之元神社、天神社、八坂神社、八幡神社、山神社の五社の氏子である二十四町内で行われます。現在のよな山車を引き回す祇園祭は、みこしを担いで回る天王祭が原型であると言われています。昔は六月十二日～十四日に行われていましたが、現在は六月の第二土・日曜日に行っています。

祇園祭では、二十台の山車が引き回されます。一番古いものは、明治時代からの山車もあります。また、最近では、吉原本町通りの三か所、青年による宮太鼓の競演も行っています。

二百年余の伝統を守り、一方で過去にとらわれない新しいものも取り入れながら、この祇園祭を継続していきたいと思えます。吉原の街の活性化にもつながっていききたいですね。



吉原祇園祭五社協議会
会長・祭典委員長
なかだ ひろむ
中田 廣さん (西仲町)

こちら編集室

4月の人事異動で新しく編集室の仲間入りをしました。以前の職場ではベテランでも、こちらでは新人職員。戸惑いや不安な毎日でしたが、最近では楽しい仲間と、気さくな上司に囲まれ、すっかり居心地がよくなりました。

異動を契機に始めたダイエットも2週間で4kgの大幅減。貯金が減ると悲しいけれど、体重が減るのはすごくいい気分です。

5月は新緑の季節。好きなバイクにまたがって、林道ツーリングにでも行こうかな。(XLR250R)

人口 240,629人 (前月比-171)
男 119,735人 (-29)
女 120,894人 (-142)
世帯 81,446世帯 (+182) 4月1日現在
編集・発行 富士市総務部広報広聴課
〒417-8601 静岡県富士市永田町1-100
☎51-0123(代) ☎51-1456

